

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 薫、別惣 淳二
			担当形態： 複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・教員の社会的役割とその歴史的変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。・教員養成と教員免許制度について理解している。・教員の任免と服務について理解している。・教員の種類と職務、校務分掌について理解している。・教員に求められる資質能力と研修について理解している。			
授業の概要			
教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。			
授業計画			
第1回：教職とは			
第2回：さまざまな教職観とその歴史的変遷			
第3回：教員に求められる資質・能力			
第4回：教員養成と教員免許制度			
第5回：教員の職務① 教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校の意義			
第6回：教員の職務② 学習指導、生徒指導、その他			
第7回：教員の職務③ 保護者・地域との連携協力			
第8回：教員の職務④ アカウンタビリティと学校運営			
第9回：教員の人事管理①：服務			
第10回：教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒			
第11回：教員の人事管理③：教員評価			
第12回：教員の資質向上と研修			
第13回：教員の労働環境			
第14回：教員という仕事—やりがいと悩み—			
第15回：目指す教員像と課題 定期試験			

テキスト

必要に応じてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

教職論 これから求められる教員の資質能力（石村卓也、昭和堂）

その他必要な資料を適宜授業で配布する。

学生に対する評価

試験（60%）、授業内課題（20%）、まとめノート提出分（20%）

授業科目名：特別支援教育の基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：杉田 律子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ インクルーシブ教育の推進に向け、特別支援教育が果たす役割を理解する。 ・ 共生社会の実現に向けて、特別なニーズのある子どもに対する問題意識を高め、指導と支援のあり方について考える。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
授業の概要			
様々な障害等およびその他のニーズにより特別な支援を必要とする幼児、児童に対して、発達障害のある子どもを中心とした基本的な課題と具体的な指導と支援のあり方について、その方法を考えることができるよう、講義とアクティブラーニングを行う。授業においては学校現場の指導事例等を適宜紹介し、実践的に支援計画と方法を考え、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業計画			
第1回：特別支援を必要とする子どもの理解①特別支援教育の理念			
特別支援を必要とする子どもの基本的なとらえ方と知識の理解。インクルージョン、ICFの考え方の理解。			
第2回：特別支援を必要とする子どもの理解②特別支援教育の推進			
インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の推進の意義について。特殊教育から特別支援教育への変遷			
第3回：知的障害および発達障害の理解			
知的障害および発達障害児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程			
第4回：知的障害および発達障害児教育の教育課程および支援の方法			
①通常の学級、②通級による指導、③特別支援学級、④特別支援学校における指導と支援の概要について、自立活動の意義について			
第5回：学習障害の理解と支援の方法			
学習障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める			

第6回：ADHDの理解と支援の方法

ADHDの障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第7回：自閉症スペクトラム障害の理解と支援の方法

自閉症スペクトラム障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第8回：視覚・聴覚障害の理解と支援の方法

視覚・聴覚の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第9回：肢体不自由・重症心身障害児の理解と支援の方法

肢体不自由・重症心身障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第10回：病弱児の理解と支援の方法

病弱児の障害特性さらに医療的ケアの理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第11回：特別支援の教育課程と個別支援計画

特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の理解

第12回：特別支援の教育課程および支援の方法

通級指導や自立活動を中心とする教育課程の枠組みの中での合理的配慮、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性

第13回：家庭支援と教育相談 保護者に対する支援と教育相談、心理的アプローチ

第14回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援①

障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応

第15回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援②／まとめ

母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応

定期試験

テキスト

国立特別支援教育総合研究所, 2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジヤース教育新社
橋本正巳, 2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンギングサポートのすすめ～、全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70％）、授業内課題（30％）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 （カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教育課程やその編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。 学習指導要領の歴史的変遷について社会的背景を加味して説明することができる。 教育課程の構造や教育課程開発理論、開発手順等について、留意点とともに説明することができる。 分析対象校の教育課程や研究推進の組織の現状と課題を分析、検討することができる。 カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割を説明することができる。			
授業の概要			
近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになっている。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史的変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。			
授業計画			
第1回：教育課程は、教育基本法や学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領などに基づいて編成されていることや、「学問中心主義」と「子ども中心主義」という教育課程の編成原理についてケーススタディを行う。			
第2回：学校制度が始まるまでの日本の古代から近世（藩校や寺子屋の教育法）に至る教育の歴史を概観する。			
第3回：文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が、天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。			
第4回：大正デモクラシーの時代の風潮の中で、子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。			
第5回：中央集権的で画一的な教育編成を改め、アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。			
第6回：経験主義による教育内容の改造を図った昭和22・26年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーションして、全体での情報の共有化を図るとともに、教育課程編成のねらいを明らかにする。			

第7回：系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領から「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史的変遷について社会的背景を基に読み解き、特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第8回：現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第9回：「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史的変遷を理解し、特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第10回：「最低基準性」を打ち出した学習指導要領の一部改訂の動向とその背景についてケーススタディにより明らかにする。さらに、平成20年版学習指導要領を取り上げ、「確かな学力」をベースにした「生きる力の育成」を打ち出した学習指導要領とその背景についてディスカッションで明らかにする。

第11回：平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特質とその背景についてディスカッションで明らかにする。

第12回：受講生は、地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点とした特色あるカリキュラムを実施している学校の情報についてインターネットを活用して収集をする。

第13回：受講生は、グループでの分析結果をプレゼンテーションして、全体で情報の共有化を図る。また、どのグループにも共通する点や研究課題に固有な点などがあるか全体でディスカッションをする。

第14回：カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。

第15回：講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質疑応答とディスカッション及びまとめを行い、カリキュラム・マネジメント及び教育課程の重要性を理解する。

テキスト

關浩和（2019）『カリキュラム・マネジメントの理論と方法』兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻，176頁。

参考書・参考資料等

・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。

・授業の中で、適宜プリントを配付する。

学生に対する評価

小テスト（20％）、レポート（30％）、発表・実践（30％）、授業内課題（20％）

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
道徳科の誕生による新しい道徳教育：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義、その要としての道徳科について説明できる。			
現代的な課題に向き合う指導計画の作成と内容の取扱い：年間指導計画の意義と内容について理解し、道徳教育の全体計画に基づく指導計画を作成することができる。			
「考え、議論する道徳」を実現する授業づくり：道徳科の授業を多様かつ柔軟に発想し、学習指導案を作成することができる。			
質の高い多様な指導方法と教師の指導技術：児童の学習状況や発言に配慮しながら、柔軟な授業展開を試みることができる。			
道徳科における評価の実践：道徳科における評価の意義を理解するとともに、評価の考え方と方法について説明できる。			
授業の概要			
道徳教育の意義と理論について、学校における具体的な取組を分析・検討することで理解を深める。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現する授業づくりを進める。学習指導案の作成と模擬授業に重点を置き、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法にチャレンジすることで、授業構想力と実践的指導力を身に付ける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：道徳授業の動画を視聴しながら、本講義の学習の見通しと課題を持つとともに、受講方法を確認する。			
第2回：近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景：我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえ、現状と課題、道徳科に求められている課題を考察する。			
第3回：道徳教育の意義と道徳性の発達：学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童の心の成長課題について理解する。			
第4回：道徳科の内容及指導計画：内容項目の構成や取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画作成の方法や手順について考察する。			
第5回：道徳科の授業①：具体的な授業実践をもとに、道徳科の特質を生かした授業づくりを進めるた			

めの基本方針を確認する。

第6回：道徳科の授業②：児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の吟味・活用について考察する。

第7回：道徳科の授業③：「考え、議論する道徳」の実現に向けた学習指導の多様な展開と、それを生かす指導の方法や技術について考察する。

第8回：前半のまとめ授業づくりの構想：前半のまとめの小テスト（30分）授業づくりに向けて構想を練る。

第9回：学習指導案の作成①：学習指導案の内容と作成のための主な手順を確認し、具体的な指導過程を構想する。

第10回：学習指導案の作成②：道徳科の指導の基本方針を踏まえながら、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。

第11回：学習指導案の作成③：作成した学習指導案についてグループで話し合い、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習指導の展開を検討する。

第12回：模擬授業①：実施した模擬授業について、指導過程や発問構成等を吟味・検討し、改善を加える。

第13回：模擬授業②：前時の振り返りをもとに模擬授業を行い、道徳科の授業づくりの実際についてその理解と実践的指導力の形成を図る。

第14回：道徳科の評価：道徳科における評価のあり方や具体的な方法を整理・検討し、ワークシートに指導要録の評価文を書く。

第15回：講義のまとめ：本講義で学んだ道徳教育や道徳科のあり方について話し合い、学習指導の具体的なイメージをもとに授業内容を整理する。

定期試験は実施しない

テキスト

1.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社

2.『新道徳教育全集 第3巻』日本道徳教育学会、学文社

参考書・参考資料等

1.『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版

2.『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発研究所

学生に対する評価

小テスト（20%）、レポート（40%）、発表・実技（30%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 総合的な学習の理論と 実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司、勝見 健史 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
「総合的な学習の時間」の変遷と学習指導要領改訂の経緯：総合的な学習の時間の変遷を踏ま えながら、学習指導要領改訂の基本的な考え方が説明できる。			
「総合的な学習の時間」の意義と教育課程における位置づけ：総合的な学習の時間の意義や教 育課程上の位置づけを理解し、年間指導計画及び単元計画を作成できる。			
「総合的な学習の時間」の内容と指導方法：総合的な学習の時間の特質に応じた指導のあり方 を理解し、具体的な授業を構想できる。			
「総合的な学習の時間」の評価：評価規準の指導計画への位置づけと、観点別学習状況の進め 方を説明できる。			
「総合的な学習の時間」を支える体制づくり：総合的な学習の時間の充実に必要な条件整備に ついて考え、教育環境をデザインすることができる。			
授業の概要			
総合的な学習の時間の意義や内容、カリキュラム、探究的な学習と横断的・総合的な学習展開 について、学校の実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくディスカッション及びグ ループワークを通して考察する。また、年間指導計画、単元の内容と立案、指導・評価の進め 方について具体的なイメージを形成し、総合的な学習の時間の実施に必要な知識や技能を習得 する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：本講義の内容や学習方法について確認するとともに、自身の経験を想起 しながら具体的な学習イメージを持つ。（担当：林敦司、勝見健史）			
第2回：「総合的な学習の時間」設置の目的と学習指導要領：現代の子供たちの学力の実態と課題から 、総合的な学習の時間の意義と教育活動全体における役割を考察する。（担当：林敦司）			
第3回：「総合的な学習の時間」の目標と内容：学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、総合的な学習 の時間の目標と内容、育成する資質・能力について考察する。（担当：林敦司）			
第4回：「総合的な学習の時間」の学習指導の基本的な考え方：総合的な学習の時間の実践上の課題を 明らかにしながら、探究的な学習の指導のあり方について考察する。（担当：林敦司）			
第5回：カリキュラム・デザイン作成のワークショップ：総合的な学習の時間におけるカリキュラム			

マネジメントの三つの側面に留意して、全体計画と年間指導計画を作成する。（担当：林敦司）

第6回：作成したカリキュラム・デザインの分析と検討：作成した年間指導計画の構想や内容について、グループで分析し検討する。（担当：林敦司）

第7回：単元デザイン作成のワークショップ：作成の手順を確認し、学習過程が探究的になるよう留意しながら、単元計画を具体的に書き表す。（担当：勝見健史）

第8回：作成した単元デザインの分析と検討：作成した単元計画の構想や内容について、グループで検討・吟味してよりよいものにする。（担当：勝見健史）

第9回：授業デザイン作成のワークショップ①：学習指導案の内容と作成のための手順を確認し、具体的な指導過程をデザインする。（担当：勝見健史）

第10回：授業デザイン作成のワークショップ②：総合的な学習の時間の指導の基本方針を踏まえ、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。（担当：勝見健史）

第11回：作成した授業デザインの分析と検討：作成した学習指導案の、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究のプロセスを確認する。（担当：勝見健史）

第12回：マイクロティーチング：作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、探究的な学習の指導のあり方について検討する。（担当：勝見健史）

第13回：実践事例を基にした評価方法の考察：総合的な学習の時間の評価のあり方を理解し、児童の学習状況と教育課程の評価について具体的な方法を検討する。（担当：林敦司）

第14回：「総合的な学習の時間」を支える体制整備：体制整備のための四つの視点に着目し、実践事例についてその効果を検討する。（担当：林敦司）

第15回：講義のまとめ：本講義で学んだ総合的な学習の時間の理論と指導法を振り返り、教育課程において果たす役割について再考する。（担当：林敦司、勝見健史）

定期試験

テキスト

1. 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、東洋館出版
2. 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』（小学校編）文部科学省、

参考書・参考資料等

1. 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（小学校総合的な学習の時間）国立教育政策研究所、東洋館出版

学生に対する評価

小テスト（10％）、レポート（50％）、発表・実技（40％）

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育にみる特別活動の特質と教育的意義：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別活動編」をもとに、特別活動の基本的な性格と意義、目標及び内容を説明できる。			
教育課程における特別活動の位置づけ：特別活動の指導計画（全体計画、年間指導計画）について、活動の評価を含めて立案できる。			
特別活動の内容と指導方法：特別活動の指導のあり方を理解し、具体的な授業を構想できる。			
指導と評価の一体化：特別活動における評価の意義を理解し、評価規準作成の手順に従って適切な評価規準と評価方法を設定できる。			
特別活動の充実：特別活動に期待される役割について、考えをまとめて発表できる。			
授業の概要			
小学校学習指導要領における特別活動の目標や内容、教育課程上の位置づけと実践上の課題を踏まえ、これからの特別活動のあり方を探究する。また、特別活動で育てる資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割を考察し、目標を達成するための指導方法や企画力を、講義やグループワーク等を通して高める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、アンケート調査：講義の内容と学習方法を確認するとともに、自分のキャリアパスポートや卒業文集を用いながら具体的な学習イメージをもつ。			
第2回：特別活動の変遷と教育課程の中の位置づけ：学習指導要領改訂のポイントを明らかにし、特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義について考察する。			
第3回：特別活動の目標と内容：特別活動の目標と内容、育成する資質・能力の視点を理解し、指導計画の作成と内容の取扱いについて考察する。			
第4回：特別活動とキャリア教育：特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることを理解して、その具体的な取組を考える。			
第5回：特別活動と道徳教育、特別活動と生徒指導：特別活動で行われる集団活動や体験的な活動が、日常生活における道徳的実践に結びつくことや、道徳科と関連させることによって、自己の生き方についての考えを深めることを理解する。特別活動の充実によって、生徒指導上の問題やいじめの未然防止			

につながったり、自己指導能力を高めたりすることを理解する。

第6回：特別活動の授業：模範となる授業動画の視聴を通じて学級活動の具体的なイメージをもち、学級活動(1)(2)(3)の学習過程について考察する。

第7回：学級活動(1)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(1)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第8回：学級活動(2)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(2)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第9回：学級活動(3)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(3)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第10回：児童会活動のデザイン、クラブ活動のデザイン：児童会活動及びクラブ活動の目標と内容を理解し、異年齢の児童による自発的、自治的な活動を通してつくる楽しく豊かな学校生活について、代表委員会の充実や委員会活動の活性化のための工夫、クラブ設置のポイントや運営をスムーズに進めるための方法についてグループで検討する。

第11回：学校行事のデザイン：学校行事の目標と内容を理解し、各教科等の学びや地域の特色、異年齢による交流活動などの要素を取り入れた年間指導計画を作成してグループで検討する。

第12回：特別活動における評価：特別活動の学習評価の基本的な考え方を理解し、具体的な事例を参考に、評価の計画から総括までを考察する。

第13回：特別活動の充実につながる教室環境づくり：モデルとなる教室掲示を参考にしながら、そこから見いだされる教室環境づくりの工夫を探る。

第14回：家庭・地域・関係機関と連携した特別活動：家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等を活用することの意義や留意事項について理解する。

第15回：講義のまとめ：「社会に開かれた教育課程」や「汎用的な力の育成」をキーワードに、特別活動に期待される役割についてまとめる。

テキスト

1. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』文部科学省、東洋館出版
2. 特別活動 指導資料『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動』（小学校編）文部科学省/国立教育政策研究所 教育課程研究センター、文溪堂

参考書・参考資料等

1. 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（小学校特別活動）国立教育政策研究所、東洋館出版

学生に対する評価

小テスト（10%）、レポート（50%）、発表・実技（40%）

授業科目名： 生徒指導・進路・キャリア教育の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 肇
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める	生徒指導の理論及び方法		
科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置づけの理解：生徒指導・進路指導・キャリア教育の概念を明確に理解し、学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する。			
児童生徒理解に基づく生徒指導実践の理論と方法：児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対応できる実践的指導力の基盤の形成を図る。			
進路指導・キャリア教育の理論と方法：進路に関する課題について理解し、進路指導・キャリア教育の基礎的な知識と指導方法の習得をめざす。			
学校内外の連携の基づく組織的生徒指導の進め方：学校における危機対応能力や学校内外の連携を進めるコーディネート能力につながる基礎的な力量を形成することを目標とする。			
授業の概要			
生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解するとともに、生徒指導実践において必要とされる方法（ガイダンス・カウンセリング・ファシリテーションなど）に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択等に関する課題をとりあげ、対応の具体的方向性について学習する。			
授業計画			
第1回：生徒指導と進路指導の教育的意義と目標：生徒指導と進路指導の意義・目的・内容について概観し、生徒指導と進路指導の教育的意義と目標等について学ぶ。			
第2回：生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義・歴史・理論：日本の学校における生徒指導・進路指導の歴史を振り返り、生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義、基盤となる理論について学ぶ。			
第3回：教育課程の諸領域と生徒指導・進路指導の位置づけ：生徒指導・進路指導が学校の全教育活動に通底する基本的機能であることを理解し、各教科、特別活動、道徳等との関係性について理解する。			
第4回：生徒指導における児童生徒理解の理論と実際：生徒指導における児童生徒理解の意味と理解の			

ための理論、及び実際の教育活動において求められる技法について学ぶ。

第5回：非行問題の理解と対応：暴力行為、インターネットや性に関する課題など、広く非行問題を理解するとともに、基本的生活習慣の確立、安全教育の重要性について理解する。

第6回：不登校の理解と対応：不登校・ひきこもり・高校中退について心理学・社会学の理論による検討を行い、非社会的問題行動への対応について学ぶ。

第7回：いじめ問題の理解と対応：いじめを心理学、社会学の視点から理解し、「いじめ防止対策推進法」制定以後の対応の方向性と課題について学ぶ。

第8回：児童生徒の自殺予防対策の理解と方法：自殺の現状と背景、リスクの高い児童生徒への関わり方、学校危機への対応について学ぶとともに、自殺予防教育の方向性と課題を理解する。

第9回：生徒指導に関する主要法令の理解と人権教育：校則、懲戒、体罰等に関する主要法令について理解し、児童生徒の人権保障の視点から生徒指導の方向性について検討する。

第10回：生徒指導の校内体制の組織化と関係機関との連携・協働：組織的生徒指導の重要性と、児童虐待や家庭の貧困等、学校だけでは解決困難な問題に関する専門機関との連携の必要性を理解する。

第11回：進路指導とキャリア教育の意義と内容：職業観・勤労観の育成、自己理解の促進、将来を見通した生き方・あり方など、多様な課題をもつキャリア教育の意義について学ぶ。

第12回：進路指導・キャリア教育の理論的背景：キャリア教育に関する国内外の諸理論を概観する。特に、最近の理論的動向（シャイン、クランボルツ、等）について学ぶ。

第13回：進路指導における児童生徒理解の方法：キャリアカウンセリングの理論と実際について、ロールプレイなどをまじえて体験的に学ぶ。

第14回：キャリア教育の先進的実践事例の検討：日本のキャリア教育の代表的な実践事例を紹介し、今後の取り組みの方向性と課題について学ぶ。

第15回：学校における生徒指導・進路指導の今後の課題：生徒指導、及び進路指導のこれからの課題について、各自の見解を発表し、全体で討議するとともに、講義全体の振り返りを行う。

定期試験

テキスト

文部科学省（編）『生徒指導提要』（教育図書、2011）。なお、講義時に適宜プリント資料を配付する。

参考書・参考資料等

日本生徒指導学会編『現代生徒指導論』（学事出版、2015）

学生に対する評価

試験（40％）、レポート（30％）、授業内課題（30％）

シラバス：教職実践演習

シラバス:教職実践演習(小学校)		単位数:2単位		担当教員名:林 敦司	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 25 人 (4クラスで実施)					
教員の連携・協力体制					
学科教員、小学校教諭の教科及び教科の指導法に関する科目を担当する教員並びに教職科目を担当する教員が、相互に担当内容を理解し、適宜学生の学習状況についての情報交換、確認、指導方針の検討を行う。また、教育委員会や小学校等から担当者を招き、学校現場の現状と課題、教職を目指す学生に期待することなどを話してもらうなど、外部講師や教育機関の協力を得ながら実効性のある授業を進めていく。					
授業のテーマ及び到達目標					
1 「求められる教師像」について多面的・多角的に考えることができる。 ○子供に好かれる教師・・・深い教育愛と情熱 ○保護者に信頼される教師・・・明るく、温かい人柄と確かな指導力 ○地域に愛される教師・・・地域貢献と地域人材の活用 ○教育行政や関係機関に頼りにされる教師・・・自己研鑽と教育貢献					
2 教師として必要な資質・能力について考察することができる。 (1) 基本的な素養と行動スタイル (2) 学習指導 (ICT活用指導力) (3) 児童理解、生徒指導、教育相談 (4) 保護者とのコミュニケーション (5) 地域や関係機関とのネットワーク					
3 今日の教育課題について分析と考察を行い、これまでの学修を踏まえながら諸問題を解決する具体的な手立てを検討できる。 (1) いじめ、不登校、ゲーム依存などの問題にどう対処するか (2) 理不尽な要求をする保護者への対応をどうするか (3) ヤングケアラー、児童虐待に対して関係機関とどう連携するか (4) 障害のある子供への理解をどう図るか (5) ICTを活用して学習効果をどう高めるか (6) 働き方改革とメンタルヘルスをどう推進するか					
授業の概要					
認定課程の総仕上げとして位置づけられる本授業では、教職に関する科目横断的な資質・能力を習得するために、現在の学校が抱えている教育課題の分析と考察を行う。その際、各種事例を提示し、ディスカッション、グループワーク、プレゼン発表、ロールプレイングなど演習を中心とした授業を行うことで実践的な指導力を身に付ける。また、これまで学修したことを踏まえ、教員として必要な人間的魅力や実践的指導力を確認するとともに、教員になる上での自らの持ち味や課題を明確にし、子供の教育に携わることへの思いを強くする。					

授業計画

第1回：教職実践演習の説明：教職に関する基礎知識の確認と、実践演習で身に付ける内容や方法について理解する。

第2回：教育課題と教師の役割：学校が抱える課題と教育専門職としての教師の使命や意義、役割と責任についてディスカッションする。

第3回：学級経営と児童対応：教育実習の経験を生かしながら、ロールプレイングや事例研究を行い、子供への対応やコミュニケーションの方法を理解する。

第4回：児童を取り巻く環境：いじめ、不登校、ゲーム依存、ヤングケアラーなど、子供を取り巻く今日的課題を取り上げ、グループワークを行いながら対応を検討する。

第5回：保護者との関わり：事例をもとに想定したクレームを用いてロールプレイングを行い、理不尽な要求をする保護者にどう対処するか考える。

第6回：特別な配慮を必要とする子供への支援：インクルーシブ教育の観点から事例の検討を行い、その子供に必要な合理的配慮や支援の方法、他教員との協力体制について話し合う。

第7回：関係機関との連携：具体的な事例をもとに、保・幼・中、児童相談所、SW、SSW、医療などの関係機関との連携方法を考える。

第8回：学級担任の業務①：事前に作成した学級経営案や学級通信を提示しながらプレゼン発表を行い、優れた点や改善点を明らかにするとともに、学級担任の心構えや学級経営の原則について理解を深める。

第9回：学級担任の業務②：朝の会や帰りの会の運営、給食指導、掃除指導を実演し、子供への声かけや指導のポイントを確認する。

第10回：模擬授業の検討：グループで学習指導案を検討する。発問や板書等を計画するポイントを確認し、学習指導案の細案を作成する。

第11回：模擬授業と授業研究1：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（指導過程、発問、話し合い、ノート指導）を中心に授業研究を行う。

第12回：模擬授業と授業研究2：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（話し方、表情、板書、評価）を中心に授業研究を行う。

第13回：模擬授業と授業研究3：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（ICT機器の活用）を中心に授業研究を行う。

第14回：教師という仕事：現職教員の声やアンケートをもとに、教師という仕事でしか得られない「喜び」や「やりがい」についてディスカッションし、理解を深める。

第15回：教師のキャリアプラン：教師としての自己課題や人生設計についてまとめる。

テキスト

資料は授業において配布する。

参考書・参考資料等

必要文献、参考図書については、授業において推奨する。

学生に対する評価

レポート20%、発表・実技60%、授業内課題20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 特別支援教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳・杉田 律子・平 田 真二・藤野 正和 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。			
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。			
障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
授業の概要			
様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業計画			
第1回：特別支援を必要とする子どもの理解①特別支援教育の理念：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF,合理的配慮（担当：杉田）			
第2回：特別支援を必要とする子どもの理解②特別支援教育の制度：特別支援教育の歴史的変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動（担当：杉田）			
第3回：視覚障害・聴覚障害の理解：視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：杉田）			
第4回：視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法：視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。（担当：杉田）			
第5回：知的障害、肢体不自由、病弱の理解：知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：橋本）			
第6回：知的障害児の教育課程および支援の方法：知的障害児の教育課程や支援の方法（担当：平田）			
第7回：肢体不自由児の教育課程および支援の方法：肢体不自由児の教育課程や支援の方法（担当：橋本）			
第8回：病弱児の教育課程および支援の方法：病弱児の教育課程や支援の方法（担当：平田）			
第9回：発達障害の理解：発達障害児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：藤野）			
第10回：発達障害児教育の教育課程および支援の方法：発達障害児の教育課程や支援の方法（担当：平田）			

第11回：特別支援の教育課程と個別支援計画：特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の理解（担当：橋本）

第12回：特別支援の教育課程および支援の方法：特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性（担当：藤野）

第13回：家庭支援と教育相談：保護者に対する支援と教育相談、心理的アプローチ（担当：藤野）

第14回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援①：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応（担当：藤野）

第15回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援②／まとめ：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応（担当：杉田）

定期試験

テキスト

文部科学省、2018、特別支援学校教育要領・学習指導要領

文部科学省、2018、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説[本/雑誌] 総則編（幼稚園・小学部・中学部）。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）

国立特別支援教育総合研究所、2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジアース教育新社

橋本正巳、2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンjingサポートのすすめ～、全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、授業内課題（30%）

授業科目名：知的障害児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：藤野 正和、足立 昌夫
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害に関する基本的な定義・概念を説明できる			
知的障害に関連する疾患および要因（成因）について説明できる			
知的障害に関連する心理的な特性について説明できる			
授業の概要			
本授業では、知的障害に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する（担当：藤野）			
第2回：知的障害児の定義とICFとの関連：知的障害児の定義とICFとの関連について理解を深める（担当：藤野）			
第3回：脳の基本的な構造と機能：脳の基本的な構造と機能（知的能力に関連する領域）について理解を深める（担当：足立）			
第4回：知的障害の生理・病理（遺伝要因および先天的な成因）：知的障害の遺伝要因（メンデル遺伝病、常染色体遺伝病など）について理解を深める（担当：足立）			
第5回：知的障害の生理・病理（先天的な成因）：知的障害の先天的な成因（代謝異常症、ダウン症候群、内分泌疾患など）について理解を深める（担当：足立）			
第6回：知的障害の生理・病理（周産期の成因）：知的障害の周産期の成因（脳性麻痺、重症黄疸、分娩仮死状態など）について理解を深める（担当：足立）			
第7回：知的障害の生理・病理（乳幼児期の成因）：知的障害の乳幼児期の成因（代謝異常症、ダウン症候群、内分泌疾患など）について理解を深める（担当：足立）			
第8回：知的障害の生理・病理（乳幼児期の成因）：知的障害の乳幼児期の成因（自閉スペクトラム症、LD、ADHDなど）について理解を深める（担当：足立）			
第9回：知的障害の生理・病理と治療：知的障害児の医療・福祉における治療や支援について理解を深める（担当：藤野）			
第10回：知的障害児の心理的特性①：知的障害児の知覚・学習・言語・概念について理解を深める（			

担当：藤野)

第11回：知的障害児の心理的特性②：知的障害児の記憶・注意・動機づけ・問題解決について理解を深める（担当：藤野）

第12回：知的障害児の心理的特性③：知的障害児のコミュニケーション・対人関係について理解を深める（担当：藤野）

第13回：知的障害児の心理的特性④：知的障害児の実用的な適応機能について理解を深める（担当：藤野）

第14回：知的障害と心理・教育的な支援：知的障害児の実態把握から心理・教育的な支援について理解を深める（担当：藤野）

第15回：授業の総括：授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う（担当：藤野）

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（30%）

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 瀬戸山 悠、足立 昌夫 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢）（含む領域：知、病）		
授業のテーマ及び到達目標			
肢体不自由に関する基本的な定義・概念を説明できる			
肢体不自由に関連する疾患および要因（成因）について説明できる			
肢体不自由に関連する心理的な特性について説明できる			
授業の概要			
本授業では、肢体不自由に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する（担当：瀬戸山）			
第2回：肢体不自由の定義とICFとの関連：肢体不自由児の定義とICFとの関連について理解を深める（担当：瀬戸山）			
第3回：脳の基本的な構造と機能：脳の基本的な構造と機能（運動・感覚に関連する領域）について理解を深める（担当：足立）			
第4回：肢体不自由児の生理・病理（脊椎・脊髄疾患など）：知的障害の生理・病理（脊椎・脊髄疾患など）について理解を深める（担当：足立）			
第5回：肢体不自由児の生理・病理（骨関節疾患など）：知的障害の生理・病理（骨関節疾患など）について理解を深める（担当：足立）			
第6回：肢体不自由児の生理・病理（筋原性疾患など）：知的障害の生理・病理（筋原性疾患など）について理解を深める（担当：足立）			
第7回：肢体不自由とてんかん発作：肢体不自由とてんかん発作の関連性について理解を深める（担当：足立）			
第8回：重度重複障害と医療的ケア：重度重複障害児における医療的ケアの重要性について理解を深める（担当：瀬戸山）			
第9回：姿勢・運動発達：姿勢・運動発達について理解を深める（担当：瀬戸山）			
第10回：肢体不自由児の発達と発達検査：肢体不自由児の発達と発達検査について理解を深める（担当：瀬戸山）			

第11回：肢体不自由児の運動・動作の特性：肢体不自由児の運動・動作の特性について理解を深める
（担当：瀬戸山）

第12回：肢体不自由児、知的障害児の知覚・知能の特性：肢体不自由児、知的障害児の知覚・知能の特性について理解を深める（担当：瀬戸山）

第13回：肢体不自由児の社会性・コミュニケーションの特性：肢体不自由児の社会性・コミュニケーションの特性について理解を深める（担当：瀬戸山）

第14回：肢体不自由児への心理的支援・配慮：肢体不自由児への心理的支援・配慮について理解を深める（担当：瀬戸山）

第15回：授業の総括：授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う（担当：瀬戸山）

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（30%）

授業科目名： 病弱児の心理・生理 ・病理		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 石黒 栄亀、高野 美由紀	
						担当形態： オムニバス	
科 目		特別支援教育に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病）（含む領域：知、肢）					
授業のテーマ及び到達目標							
病弱・身体虚弱に関する基本的な定義・概念を説明できる							
病弱・身体虚弱に関連する疾患について説明できる							
病弱・身体虚弱に関連する心理的な特性について説明できる							
授業の概要							
本授業では、病弱・身体虚弱に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。病気の児童生徒の特性の概要を理解するために学校現場で出会う主な疾患(小児がん、アレルギー疾患、糖尿病、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等)にみられる特性について、理解を深める。特に特別支援教育の領域である「自立活動」の実践事例から、学校現場における心理療法等を活用したアプローチについて学びを進め、さらに家族や教員（地域校）の心理の理解および入院治療中および退院時・復学後の病気の子どもを支える連携のあり方について考える機会とする。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション：特別支援教育における病弱教育全般について （担当：石黒）							
第2回：病気等に応じた配慮事項①白血病等小児がん：白血病、脳腫瘍、神経芽細胞種などの病態や治療法について理解し、小児がんの子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野）							
第3回：病気等に応じた配慮事項②筋ジストロフィー：筋肉の生理、筋ジストロフィーの病態や治療法について理解し、筋ジストロフィーの子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野）							
第4回：病気等に応じた配慮事項③アレルギー疾患：気管支喘息等アレルギー疾患の病態や治療法について理解し、アレルギー疾患の子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野）							
第5回：病気等に応じた配慮事項④心臓疾患、糖尿病他：子どもに多い心臓疾患や腎疾患、糖尿病等について病態やその治療法を理解し、治療中の子どもを支えるための学校の役割について考える（担当：高野）							
第6回：病気等に応じた配慮事項⑤てんかん、医療的ケア：てんかんの病態やその治療法、医療的ケアについて理解し、緊急時の対応について考える（担当：高野）							
第7回：病気等に応じた配慮事項⑥うつ病等精神疾患、心身症：うつ病等の精神疾患や心身症の病態や							

その治療法について理解し、発達障害との並存例を中心に支援の在り方を考える（担当：高野）

第8回：健康障害が知的発達に及ぼす影響：健康障害の有する児童生徒には、様々な未学習、学習内容の未定着が起こりうることを理解し、その発見と基本的な対応について理解を深める（担当：高野）

第9回：病気の子どもの心理とその特性：病弱児の心理特性とその理解について学ぶ ※グループワーク「初回授業を考える」（担当：石黒）

第10回：慢性疾患のある子どもの理解：慢性疾患のある子どもの心理について学ぶ（小児がん、アレルギー疾患、糖尿病、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等）

※「病気の子どもの理解のために（冊子）」の活用、情報収集の方法を知る（担当：石黒）

第11回：病気の子どもの心理理解：病弱特別支援学校の実践事例から学ぶ（担当：石黒）

第12回：長期入院療養児への支援：長期入院療養中の児童生徒の心理（院内学級を知る、小児・AYA世代のがんについて）（担当：石黒）

第13回：病気の子どものこころの世界の理解のために：病弱教育における自立活動の実践について知る（子どもの表現活動と心理療法（描画・箱庭・物語づくり）等の活用）（担当：石黒）

第14回：病気の子どもと学習保障：病気の子どもを支える学校の役割と学習効果について考える（各教科等・各種行事等）（担当：石黒）

第15回：病気の子どもの心を支える関係機関の連携、授業の総括：教育と医療、福祉等の連携と協働の意義（「病気との和解」を支えるトータルケアと教育的支援）（担当：石黒）

定期試験

テキスト

・標準「病弱児の教育」テキスト 日本育療学会編著 ジアース教育新社 2019（ISBN978-4-86371-493-9）

・「病気の子どもの理解のために」冊子 国立特別支援教育総合研究所

※オリエンテーション時に紹介します。

・配付資料

参考書・参考資料等

・特別支援学校学習指導要領解説、総則編（平成30年）

・特別支援学校学習指導要領自立活動編（平成30年）

・「特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理」小野次朗等共著 ミネルヴァ書房, 2011（ISBN：978-4623061532）

・「病気の子どものこころの世界 描画・箱庭・物語づくりから見えてくるもの」 角田哲哉 創元社, 2018（ISBN：978-4-422-11680-8）

学生に対する評価

・試験（50%）

・課題・レポート等提出（20%）

・授業への参加・学習態度（授業中の課題への取り組み等）（30%）

授業科目名： 知的障害児の教育課程と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳、平田 真二 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）（含む領域：肢、病）		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害教育における専門的知識：知的障害児の指導実践における理論や方法論を理解し、説明することができる。			
知的障害教育における実践的指導力：特別支援学校（知的障害）や特別支援学級で求められる指導法について学び、実践力を身につける。			
教材研究、指導計画作成、授業の進め方のポイントについて学び、授業実践力を身につける。			
授業の概要			
知的特別支援学校や知的特別支援学級の教育課程を理解し、教科別の指導、各教科を合わせた指導、自立活動等の教材研究、指導案作成、授業の進め方のポイントについて学ぶ。授業では、グループワークを中心とした演習形式を通して、実際に教材作成や模擬授業を考えることで、学校現場での指導に役立つ力を培う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、教育課程と指導の特徴：本講義の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。知的障害教育における教育課程と指導の特徴の基本について確認する。			
第2回：自立活動の指導の実際：事例を通して、実態把握と課題設定の方法を理解し、具体的な指導内容を考える。			
第3回：日常生活の指導の実際：日常生活の指導の内容について理解し、事例を通して、具体的な指導内容を考える。			
第4回：遊びの指導の実際：遊びの指導の形態等について理解し、実際に題材を設定し指導計画を考える。			
第5回：生活単元学習の実際：指導事例を通して、指導計画の立て方のポイントや指導上の留意点について理解する。			
第6回：作業学習の実際：指導事例を通して、指導計画の立て方のポイントや指導上の留意点について理解する。			
第7回：学習指導要領における各教科の目標・内容について：学習指導要領に示されている、各教科の目標・内容について、3観点で理解する。			
第8回：各教科の指導の実際（国語）：知的障害児の特性を踏まえた国語科の指導上の留意点について			

理解し、事例を通して、有効な教材や指導内容を考える。

第9回：各教科の指導の実際（算数）：知的障害児の特性を踏まえた算数科の指導上の留意点について理解し、事例を通して、有効な教材や指導内容を考える。

第10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成及び活用：個別の教育支援計画ならびに個別の指導計画の作成方法と、その活用と実際について理解する。

第11回：指導案作成の要点と工夫の実際：学習指導案の作成についてのポイントと工夫について理解する。

第12回：授業実践研究1：事例理解と題材設定：事例について課題を把握し、課題に応じた題材について、グループで検討する。

第13回：授業実践研究2：指導計画作成：グループごとに指導方法・内容を決め、指導計画を作成する。

第14回：授業実践研究3：模擬授業発表：グループごとに模擬授業を発表し合い、効果的な指導の在り方について考える。

第15回：学習のまとめ：これまで学習してきたことを再度整理し、知的障害児への指導法について全体的に理解を深め、定着を図る。

定期試験

テキスト

『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 杉野学・上田征三編著 大学図書出版

参考書・参考資料等

「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 海文堂出版

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（20%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 肢体不自由児の教育 課程と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳・平田 真二 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
肢体不自由教育における専門的知識：肢体不自由児の指導実践における理論や方法論を理解し、説明することができる。			
肢体不自由教育における実践的指導力：事例を通して具体的な指導と支援の実際を説明し、個別の指導計画が作成できる。			
自立活動の相互関連性とPDCAサイクルを踏まえた根拠のある指導・支援ができるような実践的な力量を体得する。			
授業の概要			
肢体不自由児の指導について、教育課程を理解し、自立活動の指導を中心に、①トップダウン、ボトムアップの観点、②自立活動の相互関連性、③自立活動の指導における配慮事項を踏まえ、個別の指導計画、個別の支援計画の作成を通して、PDCAサイクルの実践体系として学ぶ。			
授業計画			
第1回：肢体不自由児に応じた教育課程の編成：肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。（担当：橋本）			
第2回：自立活動の指導：自立の定義、自立活動の6つの内容の相互関連的理解、「時間の指導」「教育活動全体における指導」について理解する。（担当：橋本）			
第3回：肢体不自由児の指導1：運動・動作：肢体不自由児の運動・動作機能を中心とした基本的指導技法について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）			
第4回：肢体不自由児の指導2：感覚・知覚・認知：肢体不自由児の感覚・知覚・認知機能を中心とした指導理論について理解し、その実際について考える。（担当：平田）			
第5回：肢体不自由児の指導3：認知・コミュニケーション：肢体不自由児の認知・コミュニケーション機能と指導理論について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）			
第6回：肢体不自由児の指導4：言語：肢体不自由児の言語機能と言語指導の理論について理解し、その実際について考える。（担当：平田）			
第7回：肢体不自由児の指導5：食事：肢体不自由児の摂食指導の理論について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）			

第8回：肢体不自由児の指導6：教科指導（学習）：肢体不自由児の教科指導における姿勢及び認知特性について理解し、その指導・支援について考える。（担当：橋本）

第9回：重度・重複障害児の指導と医療的ケア：重度・重複肢体不自由児における医療的ケアについて理解し、その実際について考える。（担当：平田）

第10回：個別の指導計画の作成(PDCA)：個別の指導計画の作成手順に沿って作成し、その活用と実際について理解する。（担当：橋本）

第11回：個別の教育支援計画と移行：個別の教育支援計画の作成し、その活用と実際について理解する。（担当：平田）

第12回：地域のセンター的機能の実際：肢体不自由特別支援学校の地域におけるセンター的役割の基幹を担う巡回相談を通したコンサルテーションの実際について理解する。（担当：平田）

第13回：事例検討1：理解：実践例から指導方法、内容を理解する（担当：平田）

第14回：事例検討2：指導計画：事例提案し、指導方法・内容を決め指導計画を作成する。（担当：平田）

第15回：事例実践検討・まとめ：実践例から指導方法、内容を理解し、肢体不自由教育を総括する。（担当：橋本）

定期試験

テキスト

よくわかる肢体不自由教育：ミネルヴァ書房、

橋本 2012 気になる子どもの支援ハンドブック：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2014 気になる子どもの支援ハンドブックⅡ：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2016 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック：全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（90％）、レポート（10％）

授業科目名：病弱者の教育課程と指導法	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西上優子 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病) (含む領域：知、肢)		
授業のテーマ及び到達目標 病弱特別支援学校の教育を学び、一人一人の子どものニーズに応じた実践的な指導内容に基づく学習計画を立て、授業できることを目標とします。 ①病弱児者を対象とする学校や学級での授業や教材の工夫を学び、個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく学習指導計画を作成し、模擬授業ができる。 ②病弱児者に対する合理的配慮のある学級づくりや授業を検討し、個別の教育支援計画に反映させ、復学支援について計画することができる。 ③個々の子どもについて、教育、医療、福祉、労働等関係機関の連携を図り、進学・就職等、社会自立をめざすために必要な支援を考えることができる。			
授業の概要 特別支援学校および小・中学校の特別支援学級（病弱・身体虚弱）の教育実践から、その現状を知り、病弱教育における教育課程、指導法、さらに児童生徒一人一人の実態に合わせた合理的配慮に基づく学習指導計画を作成し、教材づくりや指導の工夫を考え、模擬授業ができることを目標とする。 地域の小・中学校等において合理的配慮のある学級づくりや授業内容の配慮等を学び、復学への支援について、学校間連携の在り方を考える機会とする。 病弱特別支援学校の教員として、教育、医療、福祉、保健、労働等関係機関との連携を図り、進学・就職等、病気の子どもの社会自立に向けての総合支援を検討課題とする。 地域の小学校・中学校で行われている病弱および身体虚弱の児童・生徒の理解啓発活動の内容を理解し体験する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、「病弱教育」について シラバス全体の確認、特に授業の目標および評価、授業参加等、留意事項の説明、病弱教育の基礎知識について確認する。 第2回：病弱教育の現状を知る 病気の子どもの具体的な教育支援と配慮事項、不登校の子どもの現状と病弱教育との関連と実態を知			

る。

第3回：病弱教育と学習保障について

病弱教育における柔軟な学びの場における学習保障、病弱教育における合理的配慮と遠隔授業、ICTの活用：アバターロボット「オリヒメ」等の活用の効果

第4回：病弱教育と合理的配慮について

病弱教育特有の合理的配慮および学習環境に応じた学習指導の工夫、授業内容の振り返り、小レポート（60分程度）配布資料による授業の予習（60分程度）

第5回：病弱教育と教育課程①について

一人一人のニーズに応じた小・中学校の病弱・身体虚弱特別支援学級の教育

第6回：病弱教育と教育課程②について

病気のある子どもの教育活動と病種による指導上の配慮事項、学校生活管理指導表の活用と各種医療器具の使用方法を知る

第7回：関係諸機関との連携について

特別支援学校（病弱）の学校組織と地域に果たす役割、地域のセンター的機能および医療との連携

第8回：関係諸機関との連携について

特別支援学校（病弱）の学校組織と地域に果たす役割、地域のセンター的機能および医療との連携

第9回：病気の子どもの理解と復学支援②について

復学支援・進学支援等、病弱特別支援学校が果たす役割および心理面や病状に応じた教科指導の工夫

第10回：病気の子どもの理解と復学支援③について

慢性疾患の児童生徒を対象とした、個別の教育支援計画と個別の指導計画の関連（小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（Ⅰ型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等）

第11回：病気の子どもの理解と復学支援③について

慢性疾患の児童生徒を対象とした、個別の教育支援計画と個別の指導計画の関連（小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（Ⅰ型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等）

第12回：病弱教育と自立活動について

自立活動領域の実際（自立活動の指導計画、実践事例演習）

第13回：病気の理解を深める教材について

自立活動：病気の理解と自己管理について

病気の理解と自己管理を図る学習の展開や教材の工夫を学び、理解啓発教材を共同制作する。

第14回：学習指導案と模擬授業の計画②について

グループワーク：個別の教育支援計画および個別の指導計画から模擬授業を考える。

第15回：病気の子どもへの教育的支援について、まとめ

病弱児教育におけるインクルーシブ教育と今後の課題について考える、病気と学びの環境の関連について（学校心理学の視点から）

定期試験

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト改訂版 日本育療学会編著 ジアース教育新社 2022, (ISBN978-4-86371-618-6)、配布資料

参考書・参考資料等

- ・「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」(平成30年3月版)
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編」(平成30年3月版)
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」(平成30年3月版)
- ・「教育支援資料」文部科学省(平成25年)
- ・「病気の子どもの理解のために」(病気の理解冊子) 国立特別支援教育総合研究所等

学生に対する評価

積極的な授業参加及び振り返りシートへの記載内容等(20%)、
課題作成およびレポート(30%)、
模擬授業等の発表課題、筆記試験(50%)

授業科目名： 知的障害教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳、平田 真二 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 ・知的障害教育における専門的知識：知的障害児の理解を基本に据え、知的障害教育と I C F の関係を理解して説明できる。 ・特別支援教育の観点から、知的障害教育の歴史、教育課程の基本的な考えと編成を説明できる。 ・知的障害児の特性を踏まえ、自立活動の指導、各教科等の指導の形態の工夫について説明できる。 ・個別の教育計画・個別の指導計画の意義と役割について説明できる。 ・知的障害児のライフステージを見据えたキャリア教育や進路指導の重要性について説明できる。			
授業の概要 知的障害児の障害特性について理解するとともに、知的特別支援学校（学級）における教育課程、指導方法・内容、個別の教育支援計画・個別の指導計画等についての概要を学び、理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、障害のとらえ方：本講義の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。 I C F をもとにした障害のとらえ方を理解する。 第2回：知的障害の定義と分類：知的障害の定義と、原因や障害の程度や障害の種類について理解する。 第3回：知的障害教育の歴史：日本における知的障害教育の歴史的経緯と児童生徒の変遷について理解する。 第4回：知的障害教育の教育課程：知的特別支援学校における教育課程の基本と、知的障害児の多様な教育の場について理解する。			

第5回：知的障害教育における指導の特徴：知的障害児の学習上の特性と指導形態の特徴等について理解する。

第6回：自立活動の指導について：自立活動の基本的事項と、知的障害教育における自立活動の実践について理解する。

第7回：日常生活の指導・遊びの指導について：日常生活の指導と遊びの指導について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第8回：生活単元学習について：生活単元学習について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第9回：作業学習について：作業学習について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第10回：教科別の指導について：各教科の指導について、学習指導要領における目標と内容と、指導上の留意点について理解する。

第11回：キャリア教育について：知的障害教育におけるキャリア教育ならびに進路指導に関する基本的な内容を理解する。

第12回：個別の教育支援計画と個別の指導計画：個別の指導計画・個別の指導計画について、作成・活用に至る経緯や意義について理解する。

第13回：特別支援学級の学級経営と教育課程：特別支援学級の教育課程と指導の工夫の在り方について理解する。

第14回：知的障害教育の現状と課題：知的障害教育の現状と課題について把握し、今後の展望について理解する。

第15回：学習のまとめ：これまで学習してきたことを再度整理し、知的障害教育の全体像についての理解の定着を図る。

定期試験

テキスト

『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 杉野学・上田征三編著 大学図書出版

参考書・参考資料等

「特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 海文堂

学生に対する評価

試験（70％）、レポート（20％）、授業内課題（10％）

授業科目名： 肢体不自由教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：肢体不自由者)		
授業のテーマ及び到達目標			
肢体不自由教育における専門的知識：肢体不自由児の理解を基本に据え、肢体不自由教育とICFの関係を理解し説明できる。			
特別支援教育の観点から、肢体不自由教育の歴史、教育課程の基本的な考え方と編成を説明できる。			
肢体不自由児の特性を踏まえ、各教科等の指導の工夫、自立活動の指導を理解し、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成することができる。			
肢体不自由児の立場に立った進路指導と職業教育を説明できる。			
授業の概要			
特別支援教育の観点から、肢体不自由とICFの関係を理解し、肢体不自由児の実態、教育課程、指導方法・内容、自立活動等を、全般的に理解する。また、肢体不自由特別支援学校の役割についても考える。			
授業計画			
第1回：肢体不自由の理解とICF：肢体不自由の定義(医学的側面、心理学的教育学的側面)とICFの相互作用について実例を通して理解する。			
第2回：特別支援教育と肢体不自由教育：特別支援教育の基本的な考えと肢体不自由教育の在り方について理解する。			
第3回：肢体不自由教育の歴史：肢体不自由教育の児童生徒の変遷を通した歴史的経過について理解する。			
第4回：肢体不自由と脳性麻痺：脳性麻痺の状態像を通した分類と随伴障害と行動特性について理解する。			
第5回：脳性麻痺児の心理的理解と特性：肢体不自由児の知覚の特徴や行動特性の把握と心理的理解について理解する。			
第6回：肢体不自由教育の教育課程：自肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の			

編成について理解する。

第7回：各教科等の指導：肢体不自由特別支援学校の幼稚部、小・中学部、高等部の各指導の工夫について理解する。

第8回：自立活動の指導：自立活動の主な指導内容と指導時間、指導形態と評価について理解する。
自立活動の主な指導内容と指導時間、指導形態と評価

第9回：進路指導と職業教育：進路指導の意義、配慮事項、進路状況と職業教育について理解する。

第10回：医療的ケア：医療的ケアの概要と意義について理解する。

第11回：情報機器等の活用：肢体不自由児の教育を支援する情報機器等の活用と活用した指導の実際例について理解する。

第12回：個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成：個別の指導計画の概要とPDCAによる作成方法について理解する。個別の教育支援計画の意義と作成例について理解する。

第13回：地域のセンター的機能：特別支援教育における肢体不自由特別支援学校の地域のセンター的役割について理解する。

第14回：肢体不自由教育の現状と課題：肢体不自由教育の現状の把握と課題認識そして展望について理解する。肢体不自由教育の現状の把握と課題認識そして展望の理解

第15回：事例紹介とまとめ：事例紹介から肢体不自由教育を総括する。

定期試験

テキスト

よくわかる肢体不自由教育：ミネルヴァ書房、

橋本 2012 気になる子どもの支援ハンドブック：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2014 気になる子どもの支援ハンドブックⅡ：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2016 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック：全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（80％）、レポート（10％）、授業内課題（10％）

授業科目名：病弱教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西上 優子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
教員として、さまざまな病気の子どもに対する正しい理解と適切な支援の仕方や配慮事項を考え、実行できる能力を高める。			
① 特別支援教育の対象とする障害の種類と病弱・身体虚弱教育の概念、主な疾患について説明できる。			
②病弱教育の歴史や現状から、病気の子どもの教育課題について説明できる。			
③病弱教育の場や教育課程について説明し、さらに自立活動の具体的な取り組みについて述べることができる。			
④病気の子どもの復学支援・進学のための教育的支援を考えることができる。			
⑤病気の子どもや家族への対応や教育・医療・福祉等、関係機関の連携を考えることができる。			
⑥病気の子どもの心理と子どもを支える家族の心情の理解ができる。			
授業の概要			
病弱・身体虚弱の子どもの教育について、法令、教育制度、教育課程、教育の場、指導内容・方法等や子どもの病気についての基本的知識の習得をめざす。さらに復学への支援について、入院中、退院後に分けて病気の子どもや家族を支える支援体制を考え、教育、医療、福祉等、関係機関の連携と教育の役割を考える機会とする。			
病気の子どもにとっての「教育とは何か」を考え、教員として求められる能力を養うために、ロールプレイやグループワーク、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難について			
授業を始めるにあたって、特別支援教育の範疇にある病弱教育ついて基礎的知識の確認をおこなう。病弱・身体虚弱とは、病弱・身体虚弱に伴う学習上・生活上の困難、学習上・生活上の困難への対応、学校生活管理指導表の活用について学ぶ。			
第2回：病弱教育の変遷について			

病弱教育の歴史的変遷を知り、求められている教育的支援について理解する。明治から第二次世界大戦まで、第二次世界大戦後について病弱教育の各種課題について学ぶ。

第3回：病弱教育の制度について

病弱教育の対象となる個別性の高い病気の子どもの教育、病弱や身体虚弱者とは、法令等での病弱者・身体虚弱者と学びの場について知る。

第4回：学びの場と教育形態について

多様な病気の種類と連続性のある多様な学びの場、(小児がん、アレルギー疾患、糖尿病、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等)、ダイバーシティ・インクルージョン及びダイバーシティ教育と個に応じた指導の充実、連続性のある多様な学びの場、病気の子どもの学習する場所について学び、病弱教育の場と教育形態について知識を広げる。

第5回：病弱児の心理について

病弱児が抱える可能性のある心理社会的な困難、自分の病気を知ること、病弱児のきょうだいの問題について学び、理解を深める。

第6回：主な病気の概要と教育支援について

小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（Ⅰ型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等の病弱児の理解と支援における基本的な心構え、医療器具（ピークフローメーター、パルスオキシメーター等、エピペントレーニング等）の使用法、病気の特性に応じた教育支援について学び、多様な教育支援を検討する。

第7回：教育課程の編成について

教育課程の法的根拠、学習指導要領の基本、教育目標と教育課程の編成、授業時間時数、指導計画作成の配慮、合科的・関連的な指導と個別の指導計画、重複障害者等に関する教育課程の取扱い、特別支援学級における教育課程、個別の指導計画と個別の教育支援計画について学び、病弱児者への支援を考える。

第8回：各教科の指導について

指導計画の作成等、実際の指導例、体育の指導について学び、特に病種による配慮事項について理解を進める。

第9回：自立活動の指導について

自立活動について、病弱教育における自立活動、個別の指導計画の作成と指導・支援、主体的で意欲的に活動できる環境づくり、他領域・各教科等との関連について学び、病弱児特有の配慮と教育支援について理解を進める。

第10回：病弱教育における情報化について

病弱教育における情報化の意義・施策・実践、病気の高校生支援におけるICT活用、病弱教育における情報化の課題、アバターロボット「オリヒメ」の活用による復学支援について学び、現状の病弱教育への活用について検討する。

第11回：キャリア教育について

病弱児童・生徒について進学や進路、就労等、キャリア教育について学ぶ、特別支援教育におけるキャリア教育、病弱教育における進路指導とキャリア教育、病弱児の社会的自立のために必要な力、病弱教育におけるキャリア教育の実際、これからのキャリア教育について学び、病気の子どもへの支援について検討する。

第12回：病弱児と医療的ケアについて

医療的ケアとは、学校における医療的ケアとその実施者、医療的ケアの実態、医行為、医療的ケアの経過、医療的ケア児について学び、その必要性について理解を図る。

第13回：教育と医療・福祉等との連携

病弱児に関係する医療の現状、病弱児に関係する医療費制度、病弱児に関係する医療に関わる職種、病弱教育に関係する福祉制度、小児慢性特定疾病対策と学校教育について学び、関係機関の連携の必要性を理解する。

第14回：病弱児への復学支援の実際

復学支援が注目される背景、入院から退院までの学籍移動のプロセス、復学後の学校生活について、復学支援の成功の指標、復学支援に関する内容を学ぶ機会（子どもをつなぐICTの活用）を学ぶ。

第15回：病弱教育の今後の課題とターミナル期の教育保障、まとめ

病弱教育の今後の課題、ターミナル期の児童生徒への教育保障について学び、病気の子どもへの教育の必要性について考える。

定期試験

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト改訂版 日本育療学会編著 ジアース教育新社 2022, (ISBN978-4-86371-618-6)、配布資料

参考書・参考資料等

- ・特別支援学校学習指導要領解説、総則編（平成30年）
- ・特別支援学校学習指導要領各教科編（平成30年）
- ・特別支援学校学習指導要領自立活動編（平成30年）
- ・教育支援資料 文部科学省（平成25年）
- ・国立特別支援教育総合研究所等発行「病気の子どもの理解のために」（冊子）

※第1回目の授業のオリエンテーション時に紹介します。

学生に対する評価

授業への参加、意欲・態度、ふり返りシートの記載内容（30%）

提出課題（20%）

試験（50%）

授業科目名： 心理検査法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野正和
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
集団における教育と個別支援の双方に子どもの発達理解の意義を理解する			
知能検査を体験し、子ども理解の本質を考え、子どもの発達を多面的に捉える大切さに理解する			
知能検査のプロフィールから、子どもの特徴を捉えて教育計画に生かすことができるようになる			
授業の概要			
心理検査のうち特に障害児のアセスメントに用いられる発達検査や知能検査・投影法的検査の演習を通して、子どものアセスメントの意義を理解し、子どもの教育計画に活用する力を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回：子ども理解とアセスメントの意義：教育実践における子ども理解の意義とアセスメント（心理検査、面接、観察）の意義の理解			
第2回：心理検査の概要と進め方：子どものアセスメントによく用いられる心理検査の概要と検査の進め方について			
第3回：心理検査の妥当性と信頼性：心理検査の妥当性と信頼性について学び、検査を実施するにあたっての留意点を学ぶ			
第4回：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の演習①：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の進め方			
第5回：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する			
第6回：田中ビネー式知能検査の演習①：田中ビネー式知能検査の進め方・演習			
第7回：田中ビネー式知能検査の演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する			
第8回：WISCの演習①：WISCの進め方・演習			
第9回：WISCの演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する			
第10回：K-ABCの演習①：K-ABCの進め方・演習			

第11回：K-ABCの演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する

第12回：その他の心理検査①（投影描画法）：心理検査（投影描画法）の進め方・演習・解釈

第13回：その他の心理検査②（SCT・P-Fスタディ）：心理検査（SCT・P-Fスタディ）の進め方・演習・解釈

第14回：アセスメントから教育計画へ：子どものアセスメントから個別支援の方法について考える

第15回：アセスメントから教育計画へ：子どものアセスメントから個別支援の方法について考える
定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（50%）、レポート（20%）、授業内課題（30%）

授業科目名：視覚障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：正井 隆晶 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
視覚の生理、病理及び視覚障害者の心理の基礎的な事項を説明できる。 視覚障害教育の教育課程や教材教具の工夫、自立活動の内容、盲と弱視の指導の違い等を説明できる。			
授業の概要			
この講義では、視覚の生理、病理及び視覚障害者の心理から解説し、病理では理解が深まるようにシミュレーションも取り入れて取り組む。また、視覚障害教育の教育内容や方法の講義では、視覚障害特別支援学校でのアセスメント方法、授業における教材教具の工夫、実技科目における指導の工夫、自立活動における指導内容と方法などについて、視覚障害特別支援学校での指導経験をもとに具体的に講義する。			
授業計画			
第1回：視覚障害者の歴史：日本における視覚障害者の歴史／視覚障害者への教育の歴史			
第2回：視覚障害教育の場：日本における視覚障害教育制度・教育課程等			
第3回：点字についての学び：点字の歴史／日本点字の読み			
第4回：点字の指導：視覚障害特別支援学校における点字の指導について			
第5回：眼の生理と視機能：眼の構造と視機能／視覚の発達			
第6回：視機能評価の基礎知識：視力検査／視野検査			
第7回：眼の病理と視覚障害：視覚障害の病理／弱視体験と注意点／シミュレーション／シミュレーションレポートの作成			
第8回：アセスメント：視覚障害とは／盲と弱視の定義／教育的視機能評価／点字・感覚能力検査			
第9回：弱視への指導（1）：弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫			
第10回：弱視への指導（2）：自立活動の指導／弱視レンズ／拡大読書器／PC／ADL			
第11回：盲への指導（1）：盲への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫			
第12回：盲への指導（2）：自立活動の指導／墨字・漢字／触察／PC／ADL			
第13回：スポーツの指導・歩行指導：視覚障害者のスポーツ／パラリンピック／歩行指導／歩行補助具／盲導犬			

第14回：重複障害への指導：盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実際

第15回：職業課程とキャリア教育・センター的役割：職業課程の概要と中途視覚障害者／キャリア教育／センター的役割と教育相談

定期試験

テキスト

テキストは使用しない。各回ごとに資料を配付する。

参考書・参考資料等

「新・視覚障害教育入門」青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアース教育新社

学生に対する評価

試験（40％）、小テスト（20％）、レポート（20％）、発表・実技（20％）

授業科目名：重複・発達障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本 正巳・平田 真二・藤野 正和
			担当形態：オムニバス
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複・LD等) (含む領域：視、聴、知、肢、病)		
授業のテーマ及び到達目標			
重度・重複障害の概念を理解し、その心理・生理・病理を学ぶとともに、障害特性に合わせた、指導の理論と技法を理解することを目標とする			
発達障害の概要を学ぶとともに、障害特性に合わせた、指導の理論と技法を学ぶ			
授業の概要			
重複障害および発達障害の概念と重度・重複障害の実態、障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、教育課程、個別の指導計画等について学ぶ。			
授業計画			
第1回：重複障害と発達障害の概念の理解：重度・重複障害および発達障害の概念について理解する (担当：橋本)			
第2回：重度・重複障害児の生理・病理の理解：重度・重複障害児の生理・病理について理解する (担当：橋本)			
第3回：重度・重複障害児の心理の理解：重度・重複障害児の心理について理解する (担当：藤野)			
第4回：重度・重複障害児の教育課程の編：肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。(担当：橋本)			
第5回：重度・重複障害児の指導方法①感覚・運動機能：感覚・運動機能の特性から支援方法について考える (担当：橋本)			
第6回：重度・重複障害児の指導②認知・コミュニケーション：認知・コミュニケーションの特性から支援方法について考える。(担当：橋本)			
第7回：重度・重複障害児の指導③医療的ケア：医療的ケアの概要と意義について理解する。(担当：平田)			
第8回：重度・重複障害児の個別指導計画の作成：事例検討を通して個別の指導計画について理解を深める (担当：橋本)			

第9回：発達障害の生理・病理の理解：発達障害の概念および生理・病理について理解する。（担当：橋本）

第10回：発達障害児の心理の理解：発達障害の概念および生理・病理について理解する。（担当：藤野）

第11回：発達障害児の教育課程の編成：発達障害児教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。（担当：橋本）

第12回：発達障害児の指導①自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラムの概要と支援方法について理解する（担当：平田）

第13回：発達障害児の指導②ADHD：ADHDの概要と支援方法について理解する（担当：平田）

第14回：発達障害児の指導③学習障害：学習内容の概要と支援方法について理解する（担当：橋本）

第15回：発達障害児の個別の指導計画の作成：事例検討を通して個別の指導計画について理解を深める（担当：橋本）

テキスト

橋本正巳、2016, 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～, 全国心身障害児福祉財団橋本正巳、2012, 気になる子どもの支援ハンドブック財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70％）、レポート（20％）授業内課題（10％）

授業科目名：聴覚障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：杉田 律子
			担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
聴覚障害の生理・病理および検査法について理解を深める			
聴覚障害児の心理について理解を深める			
聴覚障害教育の歴史を学び、教育方法および教育課程の変遷について理解を深める			
授業の概要			
聴覚障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、教育課程、個別の指導計画等について学ぶ。			
聴覚障害者の心理的問題に着目して、援助方法について学ぶ			
授業計画			
第1回：聴覚障害児の生理・病理：聴覚障害児の生理・病理の理解			
第2回：聴力検査と診断法：聴力検査法について学び、障害特性を理解する			
第3回：聴覚障害児と認知発達・言語発達：聴覚障害の特性が子どもの認知発達・言語発達に与える影響について学ぶ			
第4回：聴覚障害児の学力と社会性の発達：聴覚障害の特性が社会性やコミュニケーションに与える影響について学ぶ			
第5回：聴覚障害児の心理的諸問題：聴覚障害児の心理的諸問題について、基本的なカウンセリングの手法を学ぶ			
第6回：聴覚障害児の自我発達と障害認識：自我発達の観点から、聴覚障害児の障害認識について学ぶ。 。自立活動やエンパワーメントプログラムについて			
第7回：聴覚障害教育の歴史：聴覚障害児の教育の歴史について学ぶ			
第8回：早期発見・早期療育の意義：早期発見・早期療育の意義について			
第9回：聴覚障害教育の教育課程：聴覚障害教育の教育課程について学ぶ。			
第10回：聴覚障害教育の実践①障害の特性の理解：障害特性の理解			
第11回：聴覚障害教育の実践②聴能訓練：基本的な聴能訓練の方法について			

第12回：聴覚障害教育の実践③発声・発語指導：基本的な発声・発語指導の方法について学ぶ

第13回：聴覚障害教育の実践④自立活動：自立計画の概要について

第14回：聴覚障害教育の実践⑤学習支援：学習支援について

第15回：聴覚障害児の個別の支援計画：地域との連携を基から、個別の支援計画によって

定期試験

テキスト

文部科学省，2020，聴覚障害教育の手引一言語に関する指導の充実を目指して―

参考書・参考資料等

脇中起余子，009、聴覚障害教育これまでとこれから、北大路書房

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（10%）、授業内課題（20%）